

科目名	日本語理解B (散文読解) Japanese B: Prose Reading						
科目担当者	清松 大 KIYOMATSU Hiroshi						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [総合教育科目 総合講座] 経営学部・経営学科 [総合教育科目 総合講座]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(3)
授業の概要	<p>我々の生活はさまざまなメディアに取り巻かれている。マーシャル・マクルーハン「メディアはメッセージである」と述べたが、そこから発せられる「メッセージ」は、あらゆる意味や局面において我々の生活や思考様式を規定している。すなわち、メディアを分析することは、我々自身の生き方を見つめなおし、考えていくことでもある。</p> <p>本科目では、「メディアと文化」という観点から、近現代社会に存在する様々なメディアの読解を通して、受講生各自のリテラシー向上へとつなげていくことを主な目的とする。なお、「散文読解」の授業ではあるが、視覚・音声メディア等を通して届けられる言語表現も分析対象とする。</p>						
授業の到達目標	<p>① 活字やwebによるメディアが有する社会的な意味を的確に把握する。</p> <p>② 文字や言葉を中心とした情報の受容・発信に関わるリテラシーを身につける。</p> <p>③ 上記の能力を、自身の学生生活や社会生活の中で適切に活かせるようになる。</p>						
授業計画・内容	1	イントロダクションー「散文」の世界とメディア					
	2	メディア読解の基礎ーメディア分析の現代的意義					
	3	新聞記事の読解①ー報道(ニュース)記事を読む					
	4	新聞記事の読解②ー報道写真を「読む」					
	5	新聞記事の読解③ー社説(論説)を読む					
	6	「声」というメディアー演説は何を訴えるのか					
	7	ネット文化のなかの散文ーブログ記事の社会性					
	8	視覚メディアの読解①ーインフォグラフィックの記号論					
	9	視覚メディアの読解②ー女性雑誌の今昔					
	10	視覚メディアの読解③ー広告のイメージ戦略と「詩」					
	11	メディアとしての小説①ー小説読解の方法論					
	12	メディアとしての小説②ー短編小説の読解					
	13	メディアとしての小説③ー田中康夫『なんとなく、クリスタル』の記号論的読解					
	14	メディアとしての評論ー岡本太郎『沖縄文化論』を読む					
	15	メディアとしてのポピュラー音楽ー文学的な歌詞とは何か					
授業外学修 (事前学修)	教科書の対象範囲を熟読し、その内容に即して予備調査をしておく(毎週2時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	受講ノートを見直しつつ、参考文献において各回の授業内容と重なる部分を熟読する(毎週2時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	・期末試験 ・授業内課題等(Moodleまたは紙媒体で提出)					70% 30%	②、③ ①、②
成績評価基準	<p>秀：(評点90点以上)到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：(評点80点~89点)到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：(評点70点~79点)到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：(評点60点~69点)到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：(評点60点未満)到達目標に達していない場合</p>						
教科書	・小林真大『生き抜くためのメディア読解』(笠間書院、2021年)						
参考文献	<p>・石田英敬『記号論講義ー日常生活批判のためのレッスン』(筑摩書房、2020年)</p> <p>・浪田陽子・福間良明編『はじめてのメディア研究ー「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで』(世界思想社、2021年)</p> <p>・門林岳史・増田展大編著『クリティカル・ワード メディア論ー理論と歴史から(いま)が学べる』(フィルムアート社、2021年)など</p>						
その他	「日本語理解A」を履修済であることが望ましいが、必須条件ではない。						